

管理栄養士と開業医が相互協力し 質の高い診療と安定経営をめざす

7月17日(土)、大阪樟蔭女子大学で

「第2回管理栄養士と開業医がコラボする会」が
会場&オンラインのハイブリッドで開催。

診療報酬改定に伴う、かかりつけ管理栄養士の
在り方について、熱い議論が繰り広げられた。



登壇者の実例報告に会場参加者やオンライン参加者は熱心に耳を傾けた

管理栄養士の存在意義を あらゆる視点から議論

医療法人松若医院院長の松若良

介氏、管理栄養士で大阪樟蔭女子
大学大学院人間科学研究科人間栄
養学専攻教授の井尻吉信氏が発
起人を務める「管理栄養士と開業
医がコラボする会」が、7月17日に
大阪樟蔭女子大学にて開催された。

地域包括ケアシステムの構築が
推進されるなか、在宅患者への栄
養管理は課題の1つといえるだろ
う。また、診療所経営の観点にお
いても「平成28年度診療報酬改定」
で外来栄養食事指導科が見直さ
れ、「対象者の範囲拡大」「診療報
酬が倍増」となったことから、管
理栄養士が診療所に雇用される機
会が増えるなど、活躍の場の広が
りが期待されている。

こうした現状を鑑み、両氏は栄
養食事指導がもたらす診療の質の
向上と安定した診療所経営の両立
を図っていくためにも、



発起人代表の松若良介氏

つけ管理栄養士の存在意義を周
知させることが重要であるとい
う考えから同会を発足。2019年
4月にキックオフセミナーを開催
し、管理栄養士と開業医が協働で
きるシステムの構築に向けた活動
をスタートさせた。

コロナ禍で1年延期の開催とな
った今回は、会場&オンラインの
ハイブリッドで実施。会場となっ
た同大学からライブ配信された。

開会に先駆け、発起人代表の松
若氏は「新型コロナウイルス感染
症の二次被害として高齢者の『コ
ロナフレイル』が問題となってい
る。当会を通じて、開業医に在宅
患者の栄養管理の重要性を促し、
管理栄養士の方々の存在意義をア
ピールしていきたい」と述べた。

今回は、実際に管理栄養士を雇
用している内科診療所、在宅療養



発起人の井尻吉信氏

支援診療所、歯科診療所の院長、
内科診療所に勤務する管理栄養士
らが登壇、それぞれが抱える課題
を交えながら現状を報告。その後、
フリーディスカッションに移っ
た。

多くのケースでは、管理栄養士
が患者への栄養食事指導だけでな
く、受付やレセプト業務、ドクタ
ーズクラークなどの業務を兼任す
ることで視野が広がり、多角的な
視点やコミュニケーション力の向
上が期待できるという。その一方、
「医療知識をもっと高めてほしい」
とさらなるスキルアップを望む医
師からの声もあった。

発起人の井尻氏は「近い将来、
あらゆる診療科の無床診療所で管
理栄養士が活躍し、患者様の病態
改善に貢献できる未来を創ってい
きましょう」と力強く語った。



管理栄養士と開業医が
コラボする会ホームページ